

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第69号

目次

- 野々山家ふすまの下張り文書
ただいま解析中……………1・2
- 郷土資料館この一品⑳……………2
- 郷土資料館セミナーを開催……………3
- 史料整理の現場から⑩……………4

ただいま解析作業中！

野々山家ふすまの下張り文書

郷土資料館では現在、市内鎌ヶ谷に所在する国登録有形文化財（建造物）「丸屋」の敷地内の蔵から発見された、ふすまの解体作業を行っています。元市史編さん事業団員の神山知徳氏の指導のもと、第1回目は博物館実習の一環として、第2回目以降は実習を終えた希望者と郷土資料館ボランティアの皆さんにも参加していただき、実施しています。見つかったふすまのうち、状態のよいものはそのまま建具として利用し、状態のあまりよくないものについては骨組み部分のみを利用する方向で、



下張りが貼り込まれた順に番号を付けていきます

解体作業を進めています。

古いふすまには、本紙（表紙、ふすま紙）の下地として用いられる「^{したば}下張り」があり、格子状の木枠の上に何層にも貼り込まれ、本紙はその上に貼られています。下張りには不用とされた「^{ほご}反古紙」と呼ばれる紙が多く使われており、これを「^{もんじよ}下張り文書」といいます。自家で使っていた紙のほか、外から持ち込んだ紙も利用されました。無造作に裁断されたものもあり、史料として完全に復元できるわけではありません

（2ページへ続く）

下張りをはがす前に、まずは
ていねいに埃を払います



(1ページからの続き)

が、一度廃棄された反古紙の中には、歴史上の大発見があることも少なくありません。

ふすまは通常、本紙1枚と4層ほどの下張り



番号が付された下張り文書

で構成されています。層ごとに記録をとりながら、貼り込まれていった順に番号を付け、文書を剥がしていきます。剥がした文書は中性紙の史料整理封筒に入れ、目録を作成していきます。

現在解体しているふすまは、サイズの変更などが行われた痕跡があり、複数の本紙と通常の倍以上の下張りで構成されていることが分かりました。非常に多くの文書が含まれており、これまでに解体した下張りの中には、江戸時代後期の鎌ヶ谷村で作成されたものも確認されています。成果は追って、展示などでご紹介していく予定です。

郷土資料館この一品②⑦

蓄音機(ちくおんき)

今回は、参考図書コーナーの一角にある蓄音器をご紹介します。

蓄音機は、レコードから音を再生する装置です。1877年、アメリカの発明王トーマス・エジソンによって、円筒に音を記録する円筒式蓄音機が発明されました。1887年には円盤レコードを発明したエミール・ベルリナーが、円盤式蓄音機を発明し、こちらが普及します。

日本では明治29年(1896)に蓄音機が、同36年(1903)にレコードが輸入され始めます。同43年(1910)には国産初の蓄音機「ニッポノフォン」が製造されました。蓄音機は、大正時代から昭和戦前期にかけて人々の娯楽の道具として広まりますが、音質の良いレコードプレイヤーの登場によって次第に姿を消していきました。

蓄音機は動力にゼンマイを使い、音の増幅にも電気を使いません。後に出てくる電気を使う電気式蓄音機は「電蓄」といって区分し

ました。蓄音機は鋼鉄の針でSPレコードに刻まれた溝から音を読み取りました。SPレコードの材質はシェラックという樹脂製で割れやすかったようです。また、再生時には独特の雑音が入るのも特徴です。後に出てくるレコードは塩化ビニールを主材料として、レコードプレイヤーの針先には工業用ダイヤモンドが使用されるなどの違いがあります。

展示している蓄音機は円盤式蓄音機です。1910年代のイギリス製のものと思われます。この機械は右側のハンドルを回すことでゼンマイを巻き込み動力となります。

なお、蓄音機の試聴はしばらく中止していましたが、再開しますのでご希望がありましたらお気軽にお尋ねください。試聴は童謡^{はな}花^{さかじい}咲翁、東京音頭などをご用意しています。



1910年代製の蓄音機

郷土資料館セミナーを開催

テーマは「東葛の建造物」

東葛地域には、貴重な文化財建造物が点在しています。今年度の郷土資料館セミナーでは、「東葛の建造物」をテーマとして5回シリーズで開催します。東葛地域の文化財建造物から見える人々の営みについて、専門家から話を聞き、知識や理解を深めてみませんか。

期日・内容・講師 ①12月22日(日)・「手賀沼干拓と井上家」・今野澄玲さん(我孫子市教育委員会) ②1月19日(日)・「玉川旅館と船橋の沿岸部の歴史」・松本康太郎さん(船橋市教育委員会) ③1月31日(金)・「染谷家



国登録有形文化財(建造物)の澁谷家住宅

のたたずまい～歴代当主が培ってきたもの～」・田中英由子さん(柏市教育委員会) ④2月16日(日)・「佐津間地区の歴史と澁谷家住宅」・鎌ヶ谷市教育委員会学芸員 ⑤3月9日(日)・「歴史ある建物をまもり伝える～千葉県北西部を中心に～」・金出ミチルさん(鎌ヶ谷市文化財審議会副委員長)

時間 いずれも午後2時～4時

場所 図書館3階集会室

定員 50人(申込先着順)

申し込み 郷土資料館 ☎445-1030

昔の暮らし体験してみよう!

=こどもワークショップ=

ちょっと昔の鎌ヶ谷はどんな様子だったのだろうか?そして、どんな暮らしをしていたのだろうか?この「こどもワークショップ」では、昔の写真を見て鎌ヶ谷の様子を感じてもらうとともに、「火のしアイロン」や「足ぶみミシン」などを実際に使ってもらうことで、昔の暮らしを体験してもらいます。

対象 小学生～中学生(保護者同伴可)

日時 2月9日(日) ①10時30分～正午
②14時～15時30分

場所 郷土資料館

定員 各回15人(申込先着順)

参加費 50円(保険料)

申し込み 1月15日(水)から郷土資料館 ☎445-1030へ(1/29(水)締め切り)

郷土資料館ボランティアが

鎌ヶ谷大仏を紹介

=鎌ヶ谷市民まつりで=

10月12日に開催された鎌ヶ谷市民まつりに、郷土資料館ボランティアの皆さんが「鎌ヶ谷の歴史と文化財PRブース」を出展しました。

会場では、鎌ヶ谷市のシンボルとなっている鎌ヶ谷大仏の等身大写真やパネル展示を始め、折り紙で大仏を折ったり、大仏のぬり絵をしたりと、子どもから大人まで楽しんでいただきました。たくさんのご来場ありがとうございました。



おおぜいの来場者で賑わったPRブース

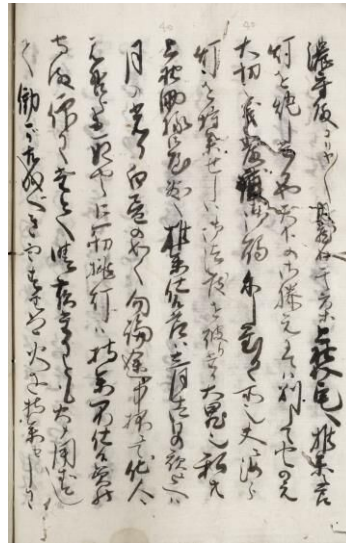
【史料整理の現場から⑱】

『義士伝附録』写本に描かれた 「忠臣蔵」討ち入り当夜

昨年度寄贈いただいたこの写本は、元禄期(1688～1704)に起きた赤穂事件あこうに関する逸話を、播磨国神東郡屋形村はりま じんとう やかた(現兵庫県神崎郡市川町)に居住していた人が、江戸時代末の嘉永5年(1852)に書き写したものです。表紙には、「赤穂四拾七士銘録 義士伝附録 全」と記されています。

赤穂事件は、江戸城内での刃傷事件で切腹に処せられた赤穂藩主 浅野内匠頭長矩あさの たくみのかみながのりの仇討ちとして、家臣である大石内蔵助おおいしくらのすけ(大石良雄)以下47人が吉良上野介義央よしたかを殺害し、うち46人が切腹した、一連の事件をいいます。それから約半世紀後、事件を題材にした作品が人形浄瑠璃や歌舞伎の演目などで上演され人気を博して以来、様々な分野で取り上げられ、「忠臣蔵」として広く知られるようになりました。講談や浪曲の演目では「赤穂義士伝」と呼ばれ、事件の経過を扱う本伝ほんでん、四十七士各人を描く銘々伝めいめいでん、周辺の人物を描く外伝がいでんから構成されますが、この写本の表題は「義士伝」の「附録」となっており、各伝とは別の意図をもって作られたものと思われます。

写本では、事件の発端となった元禄14年(1701)の刃傷事件、赤穂城明け渡し、翌15年の吉良邸討ち入り、四家御預け(細川・松平・毛利・水野の四大家に46人を勾留)までを簡条書きで記したのち、元禄16年正月に行われた評議により義士たちを呼び出し尋問を行うことが決定したという設定で、同月21日に行われた尋問の様子を描いています。なお、義士たちに切腹の処罰が言い渡されるのは2月4日



討ち入り当夜の天候
が記されたページ



写本表紙

のことで。

尋問当日は、老中の役宅に大老・若年寄・寺社奉行・公事方勘定奉行・町奉行・大目付らも列座し、大石内蔵助・吉田忠左衛門・小野寺十内・原惣右衛門はじめ義士たちが残らず召し出された上、幕府側と大石内蔵助の間で一連の事件についての問答が行われています。その中で、討ち入り当夜の様子について羽織・股引などに鍔頭巾、鎖帷子を着用していたこと、進退の合図には太鼓のみを用いたこと、吉良邸に入る際に「火事」と呼び立てて人を起こし浅野内匠頭家来浪人の旨を申し入れたこと、12月14日の夜(15日早朝)は月の光で昼間のように明るく、提灯は一切持参せず、火の元には十分に気をつけていたことなど、当時の書状や証言とも一致する興味深い描写が見られます。史実としてこうした尋問が行われたことは確認されていませんが、史実を裏付ける史料をもとに、それらを交えて物語が創作されていることをうかがわせます。

※今回紹介した史料は、現在開催中の令和6年度新資料展(～1月26日)で展示しています。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第69号 令和6年12月1日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館
住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502
メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp
ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html